

栄養茨城 FLASH No.12

公益社団法人
茨城県栄養士会

住所 〒310-0034
水戸市緑町3-5-35
保健衛生会館内
TEL 029-228-1089
FAX 029-228-4271

http://www.ibarakiken-eiyoushikai.or.jp/



会長あいさつ
会長 政安 静子

栄養士会は、二つの顔があります。一つは専門職能として県民の健康寿命の延伸と福祉の向上に寄与する団体であることです。もう一つは県内に在住の栄養士・管理栄養士の技術を高め、質を保持するための団体です。昨年五月二十九日の定時総会で会長に就任させていただきましたが、この二つの役割を達成させるため、今後どう取り組むかが大きな課題と考えています。茨城県民の健康寿命の延伸を考えると、死亡率の高い循環器疾患（急性心筋梗塞、脳血管疾患、脳梗塞）全国女性五位、男性七～八位と、糖尿病女性五位、男性二位を減らす必要があります。これらの疾患はいずれも生活習慣が要因となっており、特に食生活・栄養による影響が大きく、食習慣を改善することによって漸減できるものです。そのためには、適切な食習慣指導ができる栄養士・管理栄養

士が、他の医療職等と綿密な連携を保ちながら県民と継続した関わりを持ち、生活に根差した相談者になることが必要です。栄養にまつわる医学や食品学は急速に発展・激変しており、絶えず新しい知識の修得と技術の向上を余儀なくされております。これらの基盤となる知識や技術向上を図る場を準備するのが栄養士会であり、それを受けて適切に実践できるのは栄養士会の会員です。今、食生活・栄養が大事と様々な場で言われ、マスメディアでも取り上げられ、栄養士・管理栄養士に期待が寄せられています。その反面、他の医療職が栄養に関することを学び始めました。食べることは誰にでも容易にできると誤解される懸念はありますが、この領域の専門性は私たちが責任を持ちますと断言する必要があります。とはいえ、年々会員数が減少し、研修会等に参加する人数も減少しています。会員が減少している要因には様々なことが想定されますが、今こそ県民や多職種に栄養の重要性を知っていただく時です。多様なニーズに応え得るため、一人でも多くの仲間と連携し、団結し、活動し

たいと思っています。会員の皆様のお力添えをお願い申し上げます。

定時総会役員選出

平成二十五年五月二十九日（水）茨城県立県民文化センターにおいて、公益社団法人茨城県栄養士会第二回定時総会並びに日本栄養士連盟茨城県支部総会が開催されました。

その折、役員の改選が行われ、六期にわたり会長として会のためにご尽力いただきました高橋征子氏が退任することになりました。長い間本当にありがとうございました。なお、新役員の選出は次の通りです。

公益社団法人茨城県栄養士会

会長	政安 静子
常務理事	
総務部長	須能 恵子
組織部長	山崎 富江
学術部長	岡崎 純子
事業部長	山口 雅子
広報部長	大賀 智子

日本栄養士連盟茨城県支部

名誉支部長	政安 静子
支部長	高橋 征子
副支部長	岡崎 純子
副支部長	増子 和子
幹事長	綿引 久子
財政部長	佐藤 満子
(文責)	高津戸 みち子

連盟に 加入しましょう

茨城県栄養士会会員は、従来全員が連盟会員に加入していたのですが、日本栄養士連盟における会費納入方法が変わり、そのうえ会費が値上がりした結果、会員数が減少しました。

連盟活動は、本体である栄養士会の活動を応援し、必要な政治活動を行うことが目的です。

必要な政治活動とは、栄養士・管理栄養士の社会的地位向上や職場開拓、処遇改善等の法律の設置・改正等の整備を実現させる運動や、国民（県民等）の健康づくりを専門職として関わり、栄養士・管理栄養士の必要性を社会に認識させる活動です。当会では、全市町村保健センターに管理栄養士配置、栄養教諭の配置、県職員上級職員採用の実施、会事務局に事務局長配置（給料県費負担で派遣）、事務所建設補助金交付等々多くを要望し実現してきました。

今後もしつかりと行動を継続していくことが職能団体として大切な取り組みです。何もしなければ国家資格も危くなるのが社会の流れです。食生活の指導者として自信と誇りをもって業務が出来るよう連盟会員になつて栄養士・管理栄養士活動を支えて下さい。ようお願いします。

(文責) 高橋 征子

茨城県医師会長

キーワード「おばさん」

これからの在宅医療・介護連携推進の中心を担い、多職種協働としての栄養士の役割の大切さをご理解下さっており、小松満茨城県医師会長さんを訪問させて頂く事ができました。
医師会長という多忙な公務の中、私人としての日々の過ごし方、趣味、生活信条など話題も豊富で楽しくお話を聞きました。

(司会 大賀 智子広報部長)

会長：先生がお医者さんになろうと思ったのはいつごろですか。
小松：小学校四年生のころだったかと思います。

岡：きつかけはどんなことでしたか。

小松：小学校四年生の時に、私に医者になってほしいと願っていた叔母が、「野口英世」の伝記を買ってくれました。それを読んで、野口英世本人ではなく、

野口英世の火傷の手が開いたというところに非常に感動しました。障害があると大変苦労しますよね。それを治した医者に憧れました。ただすぐにそのことは忘れてしまいましたけれど。
小松：その後は、普通の子供と同じように野球の選手になりたいと思っていたこともありましたが、また、高校生の時には、弁護士になりたいと思っていたので、高校のクラスは、文化系でした。しかし、高校三年の秋に突然、小さいころに医者になりたいと思っていたことを思い出し、志望を医学部に変更したわ



けです。そして、弘前大学に入学しました。私は、入学した時から整形外科医になろうと思っていました。
大賀：小学校四年の時の叔母さんが買って下さった「野口英世」の伝記が頭の隅に残っていたのですね。

小松：整形外科はのびを使ったりハンマーを使ったり大工さんみたいだから、親父は瓦屋で、ちよいどいいかなと思いました。(笑)

趣味は・・・

局長：プライベートで、好きなことは？

小松：趣味は、ヨーロッパの美術館めぐりと古い日本地図の収集です。

会長：画家では、あなたが好きですか？

小松：ルノアールです。印象派が好きですね。絵で一番好きなのはポッティエリの「ヴィーナスの誕生」です。

小松：私は、民族主義者なので、もともと外国に行くという発想がありませんでした。医者になって二年目に留学の誘いがありました。ところが、十二、三年前に初めて友人の誘いでオーストラリアに行く機会を得ました。旅行中、バスの中でずーっとクラシックを聴かれました。それまでは「演歌に酒」でしたが、日本に帰ってきたときに演歌は大嫌いになっていました。洗脳されやすいのです。その後、毎年海外旅行に行くようになり、三年目にはパリに行き、初めてルーブル美術館を訪れ、感動しました。「ミロのヴィーナス」がよかったです。

会長：茨城県のおすすめの美術館はどこですか。

小松：近代美術館と天心記念五浦美術館ですね。天心記念五浦美術館はロケーションがいいですね。
岡：古い地図とはどんなものですか？



小松：十年ぐらい前にブラハに行ったときに、北海道がない本州と九州・四国の日本地図のよなものを見つけた。それは、十八世紀ぐらいの日本地図でした。それから古い地図に興味を持つようになりました。旅行したときに、古い地図を見つけると買ってきたりしています。日本にはあまりありませんが、外国には古い地図がホテルなどに貼ってありますよ。

小松：もう一つ、興味を持っているものがあります。それは、トイレの表示です。イタリアのカフェのトイレの表示がとても面白かったので、それ以来、興味を持って見るようになりました。人形・人・王冠などいろいろあります。日本でも、烏帽子の男の人と、十二単衣の女の人など面白いですよ。

会長：先生の観察力が美術館めぐりと合致するんですね。

自分でダイエット

局長：先生はお忙しい中で日頃の健康管理で気をつけていらっしゃることはありますか。

小松：特に、健康を意識してやっていることはありません。

鈴木：毎日、晩酌をされるのですか。

小松：最近は外で飲む機会が多いので、できるだけ家では飲まないようにしています。

大賀：休肝日ですね。

会長：お食事はうちで摂られることが多いですか。

小松：昼はね。夜は外食が多いですね。

鈴木：これまで大病をなさったことはありますか。

小松：最近不整脈があるということと検査をしたところストレスによるものと診断されました。それから、脊柱管狭窄症です。手術が必要かと思いましたが、よくなりました。

大賀：どんな方法でよくなりましたか。

小松：漢方薬と減量です。体重は九キロ減りました。

会長：それこそ健康管理ですね。小松：減量は、十年ぐらい前からカロリーが分かる本を買ってきいて徹底的にやりました。酒を飲まない、義理を欠く、昼食はところてんにする、てんぶらは衣を外して食べるなどを実行して、二〇〇キロカロリーぐらいは

表敬訪問

小 松 満

減らせると思いましたから。計算するとそうなりますよ。てんぶらは衣がついていないとおいしくないということが初めてわかりました。それを3か月実行しました。

大賀：運動はなさらなかったのですか。

小松：ものぐさだから運動はやりません。運動は苦手ですね。

県民・地域住民のため

会長：国の施策や日医の方針を伝えて医師会をまとめていくのは大変でしょうね。

小松：そうですね。ただ、茨城県医師会は比較的まとまっています。「茨城県医師会は、過激だから。」と言われますが、私

たちは、国民医療に対して良いことではないことに、はっきりと反対しているのです。どんなことを言われても筋は通すということが染み込んでいますね。それは、伝統ではないかと思えます。権力に対してイエスマンにならないところがありますね。県民性ではないかと思えます。

会長：それは一番大事なことです。地方は地方の考えがありますから。

小松：各県の特徴があるので、日本国中同じにはならないと思います。

局長：そのようなお話を聞くことが心強いです。

小松：そうしていけば信用・信頼されるのではないのでしょうか。常と同じスタンスでやっていくことが大事かと思っています。

会長：それもやはり県民のため、地域住民のためという基本的な考えがあれば揺らぐことはないです。栄養士は、職場のためにがんばります。

小松：普通はそうです。私だってそうです。そこで天秤にかけたとき、どちらが重要かと考えなければいけませんね。

局長：私たち栄養士も県民のため地域住民のためという考えを持つ必要がありますね。

小松：先日、医師を目指す高校生の作文コンクールがありました。その作文の中で彼らは、病気を治すのではなく心を治す医者になりたい。患者に寄り添う医者になりたい。チームで

誰とでもいっしょになって患者を診られる医者になりたい。と書いていました。すばらしいなあと思いました。

岡：やはり、このような気持ちを持っているかどうかで患者さんへの接し方も違ってきますからね。

小松：私は、高校生が目指しているようなことが実践できる人



医療・介護の連携

が医者になるべきだと思っています。実践的に患者に寄り添って患者の身になって考えられる人が必要だと思っています。

鈴木：先生は、テレビなどで栄養の番組をご覧になることがありますが。

小松：あります。栄養サポートチーム（NST）の番組を見てから興味を持ちました。チームを作って患者にかかわり、術後すぐに食事を摂ると回復も早いということには驚きました。また、感染症や合併症を発症することがなくなります。これは、

医療費削減にもつながります。これからは、人間を部分的に診るのではなく、総合的に診ていくことが必要になっていきますね。

局長：これからは、地域の中でもサポートが重要となると思うので、栄養士会としてもかわわつていかなければならないと考えています。

小松：食べられない人、チューブで栄養を摂っている人は、食べる喜びがなくなってしまうかなあ。

会長：病院から特養に移ってきた方で、口から食べ物を摂っていなかった方が何かのきっかけで少しでも食べられるようになると目の輝きがぜんぜん違ってきますね。そうすると昼間、覚醒している時間も長くなります。だから、このようなところをきちんと証明していく必要があると思っています。

小松：医師会は、他の職種と連携して在宅医療を進めるために、四師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護協会）を作りました。患者のためにはそれが必要です。

会長：栄養士もただ食べることを教えるのではなく、コーディネートとしてどうやって食べ物を手に入れ食べていただくかをきちんとサポートできるようにしたいと思っています。

小松：これからは一人暮らしが増えてくるので、その人たちがどうやってケアしていくかが課

題です。

局長：地域の中でのケアを多職種がどのようにかわわっていくかですね。

小松：地域包括ケアになると当然栄養士も入ってもらわなければならぬから、システム作りを提案する必要があると思います。

会長：そうすると人材育成もきちんとなければならぬし、ツールを使った指導ができるような体制を作る必要があると思います。医療という面では医師会に後押ししていた、だかなくていいものですか、いろいろとご指導いただいて取り組んでいきたいと思っています。本日はお忙しいところありがとうございました。

(文責 高津戸 みち子)

脂肪を消費しやすくする

高濃度
コーヒークロゲン酸
270mg

高濃度
茶カテキン
540mg



年に10回人間ドックを受けましょう。

関与成分の詳しい資料をお送りします。FAXまたはEメールでお申込ください。

請求先：花王株式会社ヘルスケア食品研究所 〒131-8501 東京都墨田区文花 2-1-3

TEL: 03(5630)7267 FAX: 03(5630)7260

E-mail: healthcare@kao.co.jp http://www.kao.co.jp/rd/eiya/



受賞おめでとう

永年の栄養士活動が認められ、平成二十五年度表彰された方々をお知らせします。

大臣賞・知事賞・保健福祉部長賞

栄養関係功労者
厚生労働大臣表彰受賞者



特別養護老人ホーム
小咲園
大谷 恵子

栄養関係功労者
学校給食文部科学大臣
表彰受賞者

〔団体〕
稲敷市立鳩崎小学校
行方市立北浦中学校

茨城県知事感謝状受賞者

・第二回定時総会

美浦村立大谷保育所
栗山 一枝
鹿島更生園救護寮
山崎 武子
地域活動(東海村)
藤田 和子
県民健康づくり表彰式

那珂記念MITOクリニック
栗林 淳子
八千代病院
秋庭 徳子
西山苑
大津 音江

茨城県保健福祉部長
感謝状受賞者

・第二回定時総会

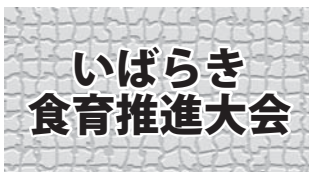
筑西市健康増進部
稲川 三枝子
桜川市保健福祉部
菅谷 寛子
石渡産婦人科病院
郡司 廣美
上の原病院
大和田 久美
県民健康づくり表彰式
鯉淵学園農業栄養専門学校
若林 陽子
ナザレ園
竹内 文江
株日立製作所日立総合病院
石川 祐一

新春懇談会

〔公社〕茨城県栄養士会と茨城県食生活改善推進団体連絡協議会合同主催による新年恒例の新春懇談会が平成二十六年一月二十七日(月)、水戸京成ホテルにおいて開催されました。

ご来賓として、橋本知事ご夫妻はじめ自由民主党茨城県支部連合会最高顧問であり栄養士会の顧問山口武平様、県医師会長の小松満様、県歯科医師会長の森永和男様、さらに県教育長小野寺俊様、県保健福祉部関係の方々、また県内の栄養士・管理栄養士養成校から茨城キリスト教大学、常磐大学、つくば国際大学、鯉

平成二十六年一月十七日茨城県立県民文化センターにおいて開催されました。橋本知事より参加者に向けた、県民の健康を守る担い手としての期待・励ましのお言葉から始まり、米飯給食献立コンテスト表彰、ヘルシーメニューコンクール表彰、茨城県県教育長表彰、茨城県学校給食振興期成会長表彰がありました。



いばらき食育推進大会

表示、茨城キリスト教大学の川上美智子氏のコーディネートでデイスカッションが行われました。栄養教諭會澤千恵子氏からは残食や味の均一化について事例発表がありました。

女子栄養大学教授武見ゆかり氏の特別講演では、「地域における実効性のある食育の推進を目指して」個人の生活の質向上という観点からの食育だけではなく、良いコミュニケーション・社会環境を作っていく食育も推進していく必要性が述べられました。

一日を通し、これからの栄養士の在り方を考える上で大変示唆に富み、実りある内容でした。

(文責 川田 嘉代子)



淵学園農業栄養専門学校、晃陽看護栄養専門学校、つくば栄養調理製菓専門学校の代表の方々との発展のため側面からご支援いただいております賛助会員二十六社から三十一名のご参加をいただき、会員を含めて二百二十名で盛大に行われました。

日頃のご指導への感謝と会員間のコミュニケーションを深める場として有意義な時間となりました。途中アトラクションも企画され、会員駒橋玲子さんによる素晴らしい歌声も披露されました。

社会情勢として、医療体制が従来の「救命・延命・治療・社会復帰」を前提にした「病院完結」から「地域全体で治し、支える」「地域完結型」への転換が必要とされています。そこで平成三十七年までに地域ケアシステムの構築が推進され、茨城県でも地域包括ケアシステム実現に向けて計画がされております。

今年の抱負は、是非このチームで取り組む地域包括ケアシステムに栄養士職が必要とされるよう実力をつけることとしたいと思います。

(文責 岡 純子)

Yakult



ヤクルト
400

ヤクルト400に比べ
甘さ・カロリー
ひかえめ
ヤクルト
400LT

お申込み・お問合せは 0120-11-8960

(受付時間:9:00~17:30 土・日・祝日を除く)
水戸ヤクルト販売(株) / 水戸市谷津町1-35 〒311-4164 ☎029 (251) 8960
古河ヤクルト販売(株) / 古河市南町1-62 〒306-0015 ☎0280 (31) 8960
千葉県ヤクルト販売(株) / 習志野市茜浜2-5-2 〒275-0024 ☎047 (452) 8960
いわきヤクルト販売(株) / いわき市小名浜林城字向田2-1 〒971-8122 ☎0246 (58) 8960

第十二回茨城県栄養改善学会 第十三回茨城県健康づくり提唱のつどい

二月十三日、茨城キリスト教大学において、第十二回茨城県栄養健康改善学会並びに第十三回茨城県健康づくり提唱のつどいが開催されました。

この学会は栄養改善事業に携わる栄養士または栄養士・管理栄養士養成施設関係者等が、食に関する調査研究や、成果・指導方法等について発表し、情報の共有化と相互の理解を深めながら資質向上をはかり、県民の健康保持増進に寄与し、今後の栄養改善事業の推進を図ることを目的に二〇〇二年度より開催されています。

午前中に行われた分科会には、口演二十九題、示説二十三題の演題申込があり、それぞれ「公衆栄養・健康増進分科会」、「臨床栄養・健康増進分科会」、「食事管理・食生活・食環境分科会」にわかれて発表を行い、活発な議論も行われていました。今回は、養成施設の学生の発表も多く、質疑応答もあって貴重な経験になったようです。

口演を聴講していた学生は「発表することや会の雰囲気は大学の講義では体験できないので、参加できてよかったです。」とコメントしていました。午後は開会セレモニーに続いて、ヤクルトの協賛による、健康づくり提唱のつどいが開催されました。

基調講演は、学会長を務められた茨城キリスト教大学大学院生活科学研究科長の川上美智子氏より「食品の嗜好成分の機能―健康管理や商品開発に活かす―」というテーマでご講演いただきました。これまでも、茶の香気成分研究、食品の香気分析の研究に携わられており、今回も嗜好性に重点をおいた茶その他の開発研究について紹介いただきました。

世界無形文化遺産にも登録され、五色のバランスと盛付の美しさを基本とする「和食」の特徴に触れつつ、食育や健康教育であまり重要視されてこなかった食品の色や味、香りといった「嗜好成分」の機能性研究結果から、『献立を考えるときは主菜や汁物を考えるのと同様に“飲み物”についても意識してほしい』とお話をされていました。

教育講演は、株式会社ヤクルト本社広報室課長 河見浩司郎氏より「生活習慣予防とプロバイオティクス」というテーマで講演いただきました。腸内フローラ（腸内にすんで

いる色々な細菌の集団のこと）は成長する過程で変化が生じること、成人期で肥満とやせの人では腸内細菌の構成が異なること、二型糖尿病の人は健康な人に比べて有害菌が多く有用菌が少ない傾向にあるなど、体全体の健康に腸内細菌が影響を及ぼしていることを紹介いただきました。また、乳酸菌やビフィズス菌はプロバイオティクスと呼ばれる、①腸内フローラのバランスを整える効果、②腸内の有害物質を減少させる効果、③腸内の運動を活発にする効果、④病原微生物の感染を妨げる効果、⑤免疫機能を高める効果が認められています。医療の現場では抗菌薬だけに頼らない感染症への対応として、安全性の高いプロバイオティクスが応用されています。

会場となった教室はほぼ満席で、参加者は基調講演、教育講演を熱心に聴講していました。

(文責 鈴木 薫子)



発表者紹介（栄養士会員）

口演発表

【公衆栄養・健康増進】

災害時の炊事支援 防災フェアにおける取り組み 大和田 千尋

同じ弁当に対する異なる集団の味覚の違い 江原 みゆき

食生活改善推進員の研修会参加による活動意識と活動量の変化 須能 恵子

国の施策に対応した当社社員食堂の取り組み～「カラダ Smart Project」当社の取り組み紹介～ 山口 雅子

【臨床栄養】

NSTが関わり、右下肢汚染創患者が治療した一症例 塚原 美貴

妊娠糖尿病と食事療法 磯崎 裕美

地域に開かれた病院の取り組み「キッズくらぶ イン ホスピタル」 後藤 理恵

茨城福祉工場の従業員の肥満の改善にP学習としての介入 廣木 智子

当院におけるチーム医療普及推進事業の取り組み 鈴木 薫子

居宅療養管理指導に関わった一例 樋田 葉子

【給食・食事管理、食生活・食環境】

公立保育所の栄養士業務について 松浦 真由美

特別支援学校における形態別調理食について 赤田部 恵美子

健康な生活を送るための実践力を育む健康教育の在り方
―養護教諭と栄養教諭の連携を通して― 猪瀬 敬子

経口摂取継続の為の施設対応 門井 華代

終末期における食生活の支援について 塚田 洋子

自ら進んで食生活について考え、改善しようとする生徒を育成するための食育指導の在り方～給食指導、食に関する授業、委員会活動、家庭との連携を通して～ ブラウン 麻美

【食生活・食環境】

「食」の在宅支援 嚥下食調理実習「えんげキッチン」の取り組み 後藤 恵理子

示説発表

【公衆栄養・健康増進】

健康まつりでの企画「塩分について考えてみよう」の評価 第2報 山田 さほり

夏バテ予防に関する健康増進媒体の開発と評価 吉野 佳織

医療系学生の生活習慣と将来の職業を異とする学科間の違い 野口 祥子

咀嚼回数増加による唾液分泌量及び身体の変化 畠本 真由美

【臨床栄養】

神経疾患をもつ熱傷患者にNSTで介入した一症例 木村 洋子

【食生活・食環境】

食品からのグルコース遊離に関するインビトロ評価法の検討 目黒 周作

PDCAサイクルにおける学生間の評価より得た教育効果 大貫 和恵

【食生活・食環境、食品調理】

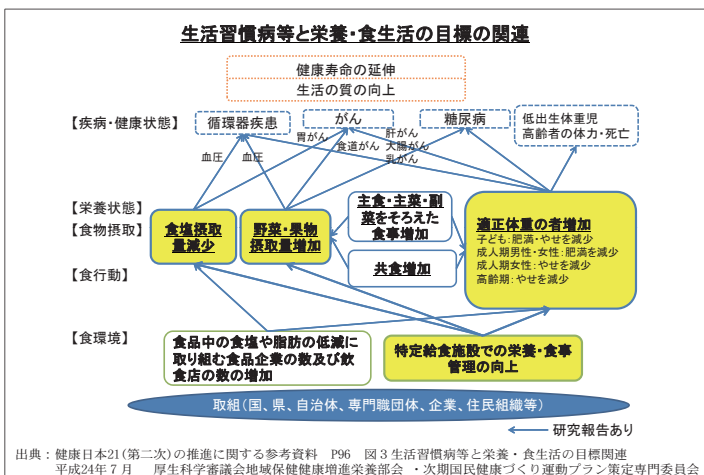
レストラン向け地場農産物を利用したレシピ開発～他職種連携の視点より～ 浅津 竜子

健康日本21(第二次)を踏まえた 給食施設指導の方針について

平成二十五年度から平成三十四年を計画期間とした健康日本二十一(第二次)では、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」を最終目標とし、それらを達成するため、生活習慣病の発症予防・重症化予防、高齢者の健康づくり、次世代の健康づくり等に取り組みことが示されています。栄養・食生活分野では、適正体重を維持している者の増加、食塩摂取量の減少、野菜と果物の摂取量の増加等のほか、特定給食施設については、利用者に応じた食事の計画、調理及び栄養の評価、改善を実施している施設の割合の増加が評価指標とされています。

このような中、平成二十五年三月二十九日付で厚生労働省健康局がん対策・健康増進課長通知「特定給食施設における栄養管理に関する指導及び支援について」が発出され、本県も、同通知に沿って給食施設への指導を行っていくこととなりました。

増やし、肥満及びやせの者の割合の変化を指標として栄養管理の状況を評価することとされています。特に、本県は小児から成人まで、男女とも肥満者の割合が全国平均より高い状況にありますので、肥満者の割合を減少させることは、生活習慣病の一次予防の観点から、優先度の高い課題と言えます。また、病院や介護老人保健施設においては、疾病や要介護状態の重症化を予防するため、管理栄養士により高度な栄養管理を実施し、チーム医療や多職種協働によるケアの質の向上を図ることが求められています。



の分析により、栄養管理上の課題が見られる施設に重点をおいて指導・支援を実施していく方針です。さらに、栄養改善の効果을挙げている好事例を収集し、他の施設への情報提供等にも努めたいと存じますので、ご協力をお願い致します。

健康日本二十一(第二次)では、分野ごとに目標の達成状況が数値で評価されます。医療、福祉、学校、職域、行政等の各領域で管理栄養士・栄養士が総力を挙げ「効果の見える栄養改善」を実施し、栄養・食生活分野から茨城県民の健康づくりを牽引してまいりましょう。

(文責 大原 佳織)

茨城栄養学術講習



今後の課題について意見交換を

「NSTの事例報告」があり、

平成二十五年度栄養学術講習会を茨城県病院協会との共催で十一月八日(金)、十二月十四日(土)の二日間の日程で開催しました。

まず第一日目は「入院患者の心のケア」と題して、茨城県立医療大学准教授山川百合子先生より講義がありました。入院中は環境の変化により精神的に不安定になりやすく、特に高齢者は、高齢化による心・脳・社会性の変化を踏まえた上でのケアが必要だということがわかりました。「サルコペニアの摂食・嚥下障害」では、東京都保健医療公社大久保病院御子神由紀子先生より講義があり、リハビリと栄養管理を同時に行うことで、ADL・QOLの改善に効果があるということがわかりました。そして各職種から

行いました。

第二日目は、糖尿病の食事療法について理解を深めることができました。

「糖尿病性腎症の重症化予防」と題して、筑波大学付属病院腎臓内科病院教授齊藤知栄先生、「糖尿病の食事療法について」食品交換表第七版の内容を、食品交換表編集委員会委員長である、杏林大学医学部付属病院糖尿病・内分泌・代謝内科教授石田均先生より講義をいただきました。糖尿病治療の目的は「合併症を防ぐこと」であり、食事療法として炭水化物を極端に制限すると栄養バランスが崩れてしまうため相対的な栄養素の配分が重要だということです。

さらに、東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻社会予防学教授佐々木敏先生より「GIの理論と活用」について講義をいただき、GIは単独で使わず、食事療法に付加的な活用の仕方が良いということもわかりました。

私たち管理栄養士・栄養士は、国民の健康を支えるという重要な役割を担っています。正確な情報を見極め、正しい食事の摂り方を伝える必要があります。今回の研修は、第一線で活躍している先生方より講義をいただき、さらに、賛助会員の展示やランチオンセミナー等もあり充実した内容でした。今後の業務に活かしていきたいと思えます。

(文責 塚田 洋子)

賛助会員コーナー

平成二十五年九月二十五日
(火) 茨城県立健康プラザに於いて、大塚製薬株式会社の協賛でソイリユーションセミナーが開催されました。

このセミナーは、健康寿命を延ばし国民生活の質を高めるために、給食施設調理従事者に対し、健康作りのための正しい知識の普及と実践に役立つ最新の情報を提供し、国民の健康保持増進を図ることを目的としています。近年大きな課題となっている、生活習慣病の予防に有効な栄養成分を含む「大豆」の情報について、多数の管理栄養士・栄養士・調理従事者が参加し研修しました。

午前中は、中川学園調理技術専門学校日本料理専門調理師・管理栄養士の中川一恵先生に「大豆の調理特性と料理活用」という演題でご講義をいただきました。大豆に含まれる栄養成分とその効用や、大豆の伝統的な調理方法・茨城の伝統料理について詳しく学ぶことができました。講義の後には、大豆料理や大豆デザート調理実演・試食として、五品の大豆料理を教えていただきました。目の前

ソイリユーションセミナー

で調理をして下さって手順も良くなり、試食で味も確認することができて、とても参考になりました。昼食休憩では、大塚製薬株式会社によるランチンセミナーがあり、昼食を頂きながら学術担当の方から「ダイズに関する情報提供」と開発商品の説明をいただきました。

午後からは、武庫川女子大学国際健康開発研究所所長(京都大学名誉教授)の家森幸男先生に、「大豆は世界を救う」〜茨城を健康・長寿のふるさとに〜という演題でご講義をいただきました。家森先生は、健康長寿の秘密を探して世界二十五カ国を二十余年をかける地域が長寿であること調査し、大豆を食べている地域を検証されました。世界的に摂取するように勧めることで健康状態が改善した点など、大豆の栄養成分の効果を改めて理解できました。茨城県は大豆製品の代表とも言える納豆の産地です。もっと食に大豆を取り入れ、生活習慣病予防に取り組んでいければと思います。(文責 大賀 智子)

ランチンセミナー ライオンハイジーン(株)・大塚製薬工場・ヘルシーフード(株)

栄養士会が開催する研修事業では、賛助会員が会員をはじめとする参加者に対し企業アピールを出来る場として展示コーナーを設置していますが、昼休みを利用したランチンセミナーの場も可能な限り設けています。開発・研究部門の講演や商品活用方法の説明、また試食提供など、各企業には時間枠を自由に活用戴いています。

食事を摂りながら最新の情報が得られ、企業やその商品等についてより詳しく理解のできる貴重な機会であることから、大変好評を戴いています。本年度は三回の研修会昼食時においてランチンセミナーを開催しました。

※給食施設調理従事者研修会
第二日目・十月九日

【ライオンハイジーン(株)】

技術開発部衛生管理推進Gの西川貴史氏が「給食施設における洗浄除菌の基礎知識」について、給食施設等勤務の主に調理師・調理員・栄養士など計百名の参加者に説明がありました。

まず汚れの種類を分類し、それぞれの特徴を分析。その上で正しく効果的な洗浄・除菌方法と適切な洗剤の選択について具体的に説明されました。

※茨城県栄養士会学術講習会
第一日目・十一月八日
【株 大塚製薬工場】

名古屋より招いた、ふきあげ内科胃腸科クリニック院長の蟹江治郎医師が「完全理解！寒天固形化栄養投与法―半固形化栄養における寒天固形化の位置づけ―」について講演がありました。病院勤務の管理栄養士を中心とした百二十四名が胃腸管理のポイントと合併症予防について固形化経腸栄養のメリットと関連付けて詳しく学びました。



※茨城県栄養士会学術講習会
第二日目・十二月十四日

【ヘルシーフード(株)】

開発部の土屋圭介・並木崇両氏が「最新のゲル化剤を使用した、ソフト食の簡単な使い方」について説明がありました。

会場満員となった百六十八名の参加者は、試食を交えた具体的な説明により、活用方法を正しく理解しました。

(文責 鈴木 修弥)

活躍一覽

◎商品展示	総会	30社
	栄養健康改善学会	13社
	給食施設調理従事者研修会	1社
	茨城栄養士会学術講習会	4社
◎ランチンセミナー		3社
◎新春懇談会	参加	26社
	商品協力	44社
◎広報ちらし		3社
◎広告バナー		5社
◎広告掲載	会員名簿	7社
	総会資料	3社
	栄養茨城 (フラッシュ)	3社

掛けふとん・合掛けふとん・既掛けふとんは
きれいな呼吸をする「コアふとん」です。

東洋羽毛北関東販売株式会社
茨城営業所 **0120-461-590**
〒310-0842 茨城県水戸市けやき台2-19-2

事務局長就任あいさつ

綿 引 久 子



三十八年間の県職員としての勤務を茨城県立中央病院を最後に退職し、平成二十五年四月から茨城県栄養士会事務局長として、会員の皆様のご指導、ご協

力のもとにお付き合いいただいております。

今後、生活習慣病及び介護予防の推進にあたり、大きな課題である在宅における栄養ケアについて、政安会長を中心として道筋を固めて行けるよう、微力ではございますが事務局としても頑張っておりますのでよろしくお願いいたします。

皆様のお声を是非お届けください。お待ちしております。

会員増対策

栄養士会は食と健康の専門職として保健・医療・福祉及び教育等の分野において諸活動を展開する栄養士・管理栄養士の職能団体です。会員一人一人が食の専門職としてスキルアップできるよう新任・専門栄養士研修会や、生涯学習研修会、各専門研究会研修会等の事業を行っています。また、会員の皆様から頂いている会費のうち六千五百円は、(公社)日本栄養士会費であり、残りの五千五百円で茨城県栄養士会を運営しています。しかし、本会の会員数は平成十八年以降年々減少傾向にあり今年度会員数は平成十八年度より百五十一人減の千百六十九人

となっております。また、県内給食施設等に勤務する栄養士の人数にしろる栄養士会員の割合は平成二十四年度において約四十%です。会員数の減少による収入減は、各種事業を展開するうえで支障が出てきてしまいます。そこで今回一人で給食施設に勤務して様々な不安を抱えている人や栄養・食生活の専門職として日々の業務に自信をもって臨みたいと感じている人、これから栄養士・管理栄養士を目指している養成校の卒業生の皆さんに、ぜひ、栄養士会に入会していただきたいと願い、入会案内をリニューアルしました。栄養士会での様々な活動内容の紹介とともに参加者の声も載せました。また、各専門研究会の取組み内容が分かる専門会長からのメッセージを載せて、本会の事業内容を今まで以上に分かりや

会費・栄養会館運営拠出金納入のお願い

会員の皆様には、日頃から会の運営等にご協力を頂きありがとうございます。

さて、平成二十六年度の会費等の納入の時期になりました。ぜひ、活発な活動ができるよう多くの方の会員の継続と、まだ入会していない栄養士の方々の入会勧奨をお願いいたします。本会の会費につきましては、皆様の負担を少しでも軽くしたいという考えのもと、来年度も値上げをせず、会を運営してきたいと考えております。他県の栄養士会の会費と比べて最も

すくしました。

一人配置が多い状況の中で、仲間作りができる栄養士会のネットワークにぜひ多くの方が入会されることを期待しています。会員の皆さんの周りで、未加入のかたはいませんか？仕事で悩んでいるかたには、ぜひ入会を勧めてください。そして、退職された会員の皆様も継続してくださるようお願いいたします。

県民の健康の保持・増進と疾病予防・改善を推進するために、県内のすべての栄養士・管理栄養士が栄養士会に入会し、常に最新の情報を身に付けて県民に役立つ活動ができるようにしましょう。そして、栄養士職のレベルアップと社会的地位の向上に努めましょう。

(文責 山崎 富江)

少ない会費であることをご理解いただければと思います。

また、連盟会費につきましては、コンビ二収納代行システムを活用した本部直納でしたが、来年度からは、支部独自の方法による収納が可能となりましたので、再度、栄養士会費と併せて納入いただくことになりました。平成二十六年度栄養士会費一万二千元と連盟会費二千元合計一万四千元をお早目に納入ください。

また、栄養会館運営拠出金(一人四万円)は、栄養士活動の拠点となっている事務所維持管理費等として使われております。これらを充分ご理解いただき、完納していない方は、引き続きご協力下さいますようお願いいたします。

(文責 高津戸 みち子)

編集後記

世の中が健康についてクローズアップされる中、私達は食のスペシャリストとして、適切な情報を発信していかなければなりません。それには、新知見を学習することで、資質向上を図っていくことが大切です。

今年も茨城県栄養士会として、色々な方面からの研修会を開催しました。会員の方々も意欲的に参加し、活気ある有意義な研

事務局だより

●平成二十六年度研修会は、新任栄養士研修会は七月、管理栄養士国家試験対策特別講座は九月(土・日・祭日)の三日間を予定しています。また、食事摂取基準が新しくなることを踏まえ、その研修を五月二十二日の総会時と九月十三日生涯教育研修会で実施する予定です。皆様の参加をお待ちしています。

●会員証は、五年間有効ですが、会費納入を忘れると失効になります。また、紛失されないようご注意ください。(再発行千円) ●迅速かつ正確に文書をお届けするために、ご自宅の住所や勤務先、氏名等が変更になった場合には、速やかにファックス又は郵送で事務局宛ご連絡ください。(文責 高津戸 みち子)

修となりました。中でも、栄養学術講習会は、保健・医療・福祉及び教育等の連携、他職種間の情報共有を図ることを目的とし、臨床栄養に関する新知見を学習する内容で、会場の席があふれるほどの参加者でした。会員の方々の前向きな意欲に圧倒されました。

栄養ケア・ステーション事業や生涯教育事業についてどのような方向に考えていくかが、今後の課題となっています。来年度も活気ある茨城県栄養士会活動ができることを願います。

(文責 大貫 めぐみ)